

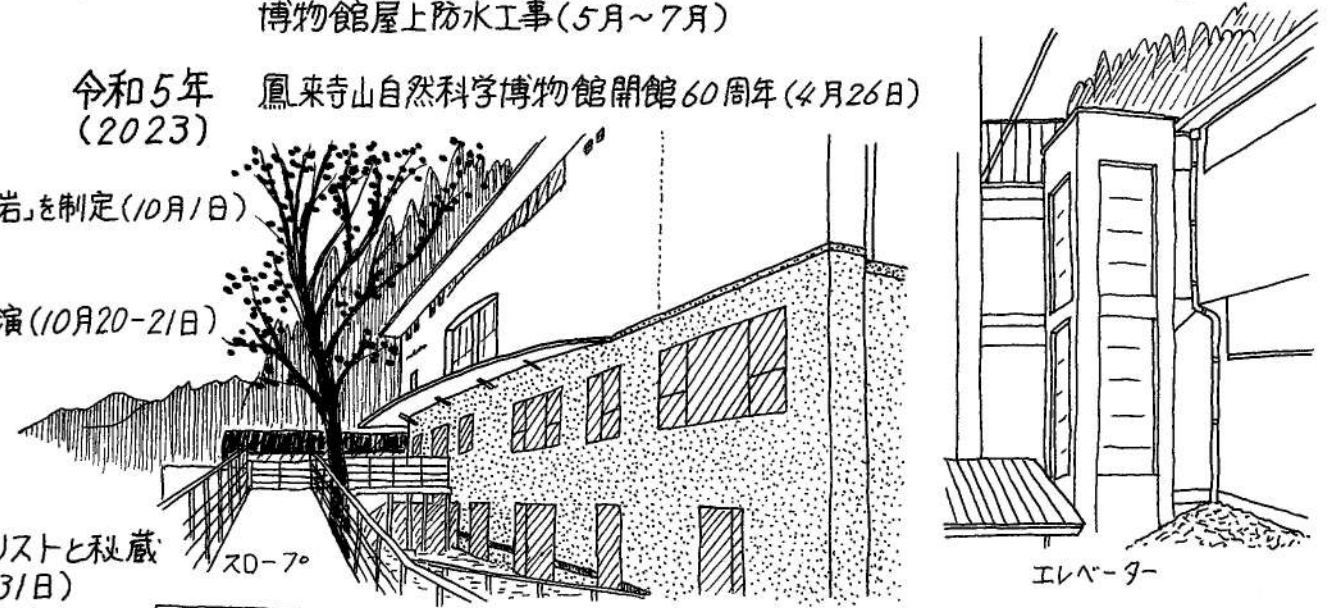
博物館物語 -その5- 50周年から100周年へ



- 平成20年 (2008) 開館45周年の記念特別展で「愛知の中央構造線」展(5月3日~8月31日)、「博物館を支えたナチュラリスト」展開催(11月23日~平成21年3月29日)
- 平成21年 (2009) バリアフリー化(スロープ、エレベーター、トイレ)、コハズクコーナー、分類展示室改修工事、全館空調導入(12月22日~平成22年3月22日)
- 平成22年 (2010) 小惑星探査機「はやぶさ」帰還(6月3日)、新城市合併5周年を記念し、市の花「ササヅリ」、木「ヤマザクラ」、鳥「コハズク」、カエル「モリアオガエル」、石「松脂岩」を制定(10月1日)
- 平成23年 (2011) 鳳来寺高校閉校(2月27日)、東日本大震災(3月11日) 全国博物館大会(第60回石川大会)で「小規模博物館の運営」について講演(10月20-21日)
- 平成24年 (2012) 友の会主催「奥三河の自然満喫ツアー」開催(2月25-26日) iPS細胞を作成した山中伸弥さんがノーベル賞受賞(10月8日)
- 平成25年 (2013) 東三河ジオパーク構想シンポジウムを豊橋市自然史博物館と共催(6月16日) 50周年記念特別展「東三河のきらめき鉱物」展、「博物館を支えたナチュラリストと秘蔵のコレクション」、「博物館半世紀の歩み」展開催(4月27日~平成26年3月31日) 愛知県博物館協会50周年の「博物館等職員研修」を当館で開催(11月28日)
- 平成26年 (2014) 鳳来寺山自然科学博物館開館50周年記念式典開催(2月2日) 「新城市の自然誌=昆虫・動物編=」、「はくぶつかんだより集」、「記念館報43号」発行
- 平成27年 (2015) 「新城市の自然誌 地学編」発行(1月31日)、「新城市の地質百選」発行(4月1日) 長篠城址史跡保存館50周年(4月25日)
- 平成28年 (2016) 「新城市の自然誌 植物・きのこ編」発行(3月18日) 日本地質学会が愛知県の石として「松脂岩」を選定(5月10日)
- 平成29年 (2017) 友の会40周年記念式典(3月5日)、鳳来寺山でコハズク鳴く(5月13日) 林唯一先生の化石標本受入(7月24日)
- 平成30年 (2018) 博物館専用車がアウル号からカゴ君に交替(3月26日)、博物館55周年「Go Go Museum」 「はくぶつかんだより」No.200発行、執筆終了(12月28日)
- 令和元年 (2019) 年号が「令和」に改まる(4月1日)、「博物館ザッ記」執筆開始(4月30日) 3階分類展示室に「湿原・湿地」コーナー新設(8月21日)
- 令和2年 (2020) 日本で新型コロナウイルス感染者初確認(1月16日)、国内の感染拡大により緊急事態宣言(4月7日) 感染拡大により臨時休館(4月13日~5月20日)、中央構造線長篠露頭崩落(7月2日)
- 令和3年 (2021) 3階展示室の「友の会」コーナー更新(4月15日) 東京オリンピック開幕(7月23日)

令和4年 (2022) コハズク用巣箱の設置条件を地上6m付近に変更し、鳳来寺山に設置(3月13日) 新城市を震源とする地震発生、マグニチュード4.6、深さ4.6km(4月7日、9時30分) 博物館屋上防水工事(5月~7月)

令和5年 (2023) 鳳来寺山自然科学博物館開館60周年(4月26日)



開館50周年を前に施設のバリアフリー化とともに、3階の分類展示室、コハズク(仏法僧)コーナーの大改修、全館の空調導入工事をおこない、館内の環境整備が進みました。

博物館50周年には、合併時から実施してきた新城市の自然環境調査をもとに「新城市の自然誌」の昆虫・動物編、地学編、植物・きのこ編(3部)を発刊することができました。

半世紀の歴史を刻んだ博物館の記念式典には大勢の関係者が集い、佳節を祝いました。そして来る100周年に向けて歩み出しました。令和5年に開館60周年を迎え、博物館にとって還暦となりました。新たな決意で歴史を創る出発の年です。

